



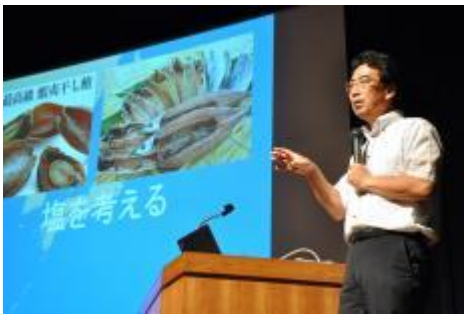
子ども大学学生新聞

第32号
子ども大学
かわごえ新聞部

縄文時代は温暖だった

「谷口先生「貝塚はごみ捨て場ではない」

九月十日(土)、川越南文化会館で國學院大學非常勤講師・葛飾区郷土と天文の博物館主査学芸員の谷口榮生先生が「地球環境の変化と縄文文化」というテーマで授業をしました。出席者は四年生三十七人、五年生四七人、六年生三〇人の計一四一人。



最初に「最近、地球環境のことで心配されていることは？」と質問がありました。学生は「地球の温暖化」と答えました。次に「気温が高くなると、海水面はどうなる？」と聞かれました。

「海水面は上がる」と学生は答えました。昔の温暖化時代、川越の近くまで海だったそうです。

は気温が高い時代で、その前の旧石器時代は寒かったと話されました。寒い旧石器時代は針葉樹、暑かった縄文時代は広葉樹がしげっていたそうです。次に、石器のない旧石器時代は、お肉をどうやって食べていたか質問がありました。学生から「日光で干した」「生のままで食べた」などの答えがありました。石器がつくられるようになって、煮て食べるようになるようになったと話されました。(奈村晴冬記者 高階小5年)

一時間目。最初に先生は貝塚について話をされました。貝塚はごみ捨て場のように思われているけれど、人骨が発見されているから、ごみ捨て場ではなかったと言われました。

先生は「現代の考えで昔を見ないことが大切。今は消費したものを捨ててしまいうけれど、そうじゃない、と縄文人は教えてくれているのです」と言われました。鳥を供養する鳥塚や、使えなくなった包丁をおさめる包丁塚、字を書いた筆に感謝するための筆塚もあると話されました。

いのちや道具を大事にする縄文人の心が、現代までつながっているのです。

次に塩について考えました。縄文時代の中ころまでは塩を作れず、どうやって塩分を取っていたかを考えました。塩の形じゃなくても海の水を使ったり、山には岩塩がありました。塩を作ることでできるようになったのは縄文時代の後半になってからだそうです。

最後に、森と文化について話されました。縄文人はたて穴住居に住んでいて、大規模なものは村の集会所として使われたそうです。まわりの森については、樹液を取るため、木にキズをつけるなど、森に資源を見つけていたのです。(中島七虹記者 中央小6年)

☆谷口先生にインタビュー

Q 縄文石器に興味を持ったきっかけは何ですか。

A 小学生のとき野球の練習で外野を守っていて、もよりのついた石を見つけて博物館に持っていったら縄文石器のかけらと言われ、それから興味を持つようになりました。

Q 縄文石器と出会えてよかったと思いますか。

A よかったと思います。自分の人生を豊かにしてくれました。見守ってくれている人に感謝しています。

Q 縄文時代の人を見習いたいところは何ですか。

A 自然や資源を大切にしているところです。例えば、魚や貝を全部取らず、必要な量だけ取って、人と資源がうまく共存していたからです。

(石井結衣記者 霞ヶ関南小6年、築城)

将真記者 牛子小5年

☆記者の授業感想

◇秋山花那記者 鶴ヶ島一小5年

谷口先生の話聞いて、びっくりしたことがあります。①縄文時代は非常にユニークだったこと(石器も、みぞ汁も、弓矢も発明)。(理由)縄文時代は昔のことなのにユニークというのがおもしろいと思った。②地球温暖化が心配されていること。(理由)地球温暖化がすすむと、住めないところも出てくるから。③ユーラシア大陸からナウマンゾウが来たこと。(理由)象が日本に來るなんて驚きました。

◇築城将真記者 牛子小5年

縄文時代、さいたま市も海だったと聞いてびっくりした。先生が野球中に偶然拾った石が研究を始めるきっかけになったと聞いて、それで本当に研究者になったからすごいなと思った。

◇篠崎仙太郎記者 中央小6年

「縄文人は温暖化を経験している」と聞いて、これから起こるかもしれない温暖化が心配だったけれど、心配ではなくなりました。また、貝塚は、ただのごみ捨て場ではなく、感謝の気持ちで込められているのだとわかり、感心しました。

◇石井結衣記者 霞ヶ関南小6年

私が住んでいる川越の近くまで海だったと知り、びっくりしました。その原因は、地球の温暖化により海水面が高くなったからだと思います。また、縄文時代にごみ捨て場としているのが貝塚と聞いていたのに、実は亡くなった人をまつっていたことを知り、縄文の人々は優しい人だったんだなと思いました。

